

JR西日本のローカル線に関する課題認識と情報開示に対する対応について

1 これまでの経緯

令和4年4月11日

JR西日本が、輸送密度の低い路線区間（17路線30区間）の収支情報等を公表。

線区別の利用状況（2019年度実績）



JR 西日本発表資料「ローカル線に関する課題認識と情報開示について」抜粋

令和4年4月27日

因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏で鳥取県知事（全国知事会長）へ、JRローカル線の維持・存続に関する要望書を提出。

2 今後の対応について（案）

（1）鉄道利用促進の取組

- ・ノーマイカー通勤「ノルデ運動」の拡大
- ・「公共交通乗って ecoh！（行こう）県民運動」への参画

（2）国等への要望活動

国等の動向を注視し、状況を見極めながら、ローカル線の維持・存続に向けて必要な要望活動を行う。